

千葉県匝瑳市（国内 68 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 5 年 1 月 28 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、国内 64 例目の発生農場から約 1.8km の距離の平野部に位置し、付近は水田に囲まれている。
- ② 当該農場は 2 階建てウインドウレス鶏舎 5 棟 8 鶏舎、事務所、集卵施設及び堆肥舎からなる。発生時には、1 棟の南側鶏舎を除く全ての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。発生鶏舎は各階背中合わせの直立 8 段 3 列ケージだった。
- ③ 当該農場は令和 3 年 2 月 11 日に高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された令和 2 年度シーズン国 49 例目の発生農場であった。

2 通報までの経緯

- ① 国内 64 例目の発生に伴い 1 月 22 日に採材された周辺農場検査において陰性が確認されていた。
- ② 農場主によると、発生鶏舎（通報時 453 日齢）における過去 10 日間の 1 日当たりの死亡鶏は 5～25 羽で推移していたとのこと。
- ③ 1 月 26 日午前中の発生鶏舎における死亡羽数は 17 羽と通常と大きく変わらなかったが、鶏舎 1 階の南側の列の中央付近の連続するケージで複数の死亡鶏が認められ、また、その反対側の列では一つのケージ内で 4 羽の沈鬱状態の生存鶏が確認されたことから、家畜保健衛生所へ通報したとのこと。
- ④ 調査時、発生鶏舎及び隣接鶏舎の殺処分は終了していた。その他鶏舎では、生存鶏は活力良好であり、特段の異状は確認されなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では専属の従業員 9 名のうち 4 名が交替で飼養管理を担当しているとのこと。
- ② 飼養管理を担当する 4 名は、基本的には鶏舎ごとに担当者は決まっていたが、休みの日等は担当でない他の鶏舎に入ることがあったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 農場敷地に沿って衛生管理区域が設定されており、出入口を除く衛生管理区域外周には柵が設置されていた。境界には立入禁止を示す看板が設置されていた。
- ② 農場主によると、従業員は農場の事務所兼更衣室で衛生管理区域専用の作業着、長靴、手袋を着用していた。各鶏舎に入る際、鶏舎前室にて手指消毒、手袋の交換及び全身の噴霧消毒を行い、鶏舎内入口において消毒薬に浸漬した鶏舎専用長靴に交換し鶏舎に入場していたとのこと。
- ③ 衛生管理区域内には、飼料会社、集卵業者、廃鶏出荷業者等の来場者が出入りしていたが、入場時には車両消毒を実施していたとのこと。ただし、中央ゲートから入場する場合際は、北側ゲートにて車両消毒を実施し、一度公道を經由してから入場していたとのこと。
- ④ 廃鶏の出荷作業を行う業者は、鶏舎に入る前に持参した鶏舎専用衣服及び靴を着用し、手指消毒を実施していたとのこと。その他の来場者は、基本的に入場時に長靴の交換を行うが、一部把握できていない業者があるとのこと。
- ⑤ 給与水は井戸水を利用しており、塩素消毒を実施し、鶏舎内のラインを通じて自動給水していたとのこと。
- ⑥ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタ

ンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。

- ⑦ 各鶏舎と集卵施設は集卵バーコンベアで連結されており、バーコンベアの上部は囲い屋根があり、鶏舎に近い部分の下部には防鳥ネットが張られていた。卵は未洗浄の状態ですべてのGPセンター出荷しているとのこと。
- ⑧ 発生鶏舎の鶏糞は、除糞ベルト及びベルトコンベアで鶏舎外に搬出し、車両に積載して農場敷地内にある堆肥場に運搬して一次発酵を行った後に、近隣にある系列の堆肥場に運搬して更に発酵処理をしているとのこと。農場敷地内にある堆肥場には系列の育雛農場からも鶏糞を持ち込んでいるが、搬入の際は車両消毒を実施し、運転手は衛生管理区域内で降車しないとのこと。
- ⑨ 農場主によると、死亡鶏は毎日回収して農場敷地内の焼却炉で処理していたとのこと。
- ⑩ 農場主によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は鶏舎内の洗浄・消毒を行い、その後の空舎期間は1か月程度設けていたとのこと。
- ⑪ 農場主によると、冬季になってから週に1回以上の頻度で、農場敷地内への消石灰粉の散布と鶏舎壁面の噴霧消毒を実施しているとのこと。
- ⑫ 発生鶏舎は鶏舎奥の換気扇から排気し、鶏舎側面とモニター屋根側面の開口部から吸気して、各鶏舎内の両壁にあるインレットから給気を行う強制換気を実施していた。ただし、国内64例目の発生以降は、全鶏舎の北側のインレットを閉鎖して南側からのみ吸気するようにしていたとのこと。換気扇は一部が稼働していたが、自動制御であるため気温により全ての換気扇が数十秒単位で停止する場合がありますとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 農場主によると、以前は農場内で野鳥やネコをよく見かけたものの、最近ネコは見られず、また堆肥舎に防鳥ネットを設置してからは農場内に野鳥が飛来する頻度が格段に減ったとのこと。調査時、堆肥舎外側にムクドリ、セキレイ等の野鳥が数羽飛来していた。
- ② 農場主によると、月に1回ネズミの駆除を業者に依頼しており、加えて鶏舎内随所に粘着テープや殺鼠剤を設置しているとのこと。調査時にも、発生鶏舎内でネズミの死骸を確認した。
- ③ 農場主によると、鶏舎の吸気口及び排気口は目の細かい金網若しくは自動制御のシャッターが設置されているか、又は鶏舎内に小型鳥類が侵入できない程度の細いスリット状の形状をしているとのこと。また、鶏舎内の除糞ベルトのピットには蓋が設置されていた。
- ④ 堆肥舎、鶏糞を搬出するベルトコンベアの鶏舎出口及び集卵ベルトの鶏舎出口には防鳥ネットが設置されていた。

(以上)